

報



會

會 岳 山 本 日

32

月 一 年 九 和 昭

ス キー 漫 語

隆々たる山骨が額を削つてそゞり立つてゐる。その雄々しい岩肌を仰いだとき、然もそれが頂に到る主稜の壁であるとき、尙更私等は、その岩根に抱きつきたくなる。たとひ困難なルートでも、岩角から岩角へと攀ちて行く、その快感を想像して心は跳躍する。

幽邃な大森林の底を、白泡を吹いて落走して行く溪水のきらめき、廊下の岩樋の間隙を、碧玉のやうに淀んでゐる深潭を、山上より望んだとき、私等は谷に下り、水に随つて溪間をさまよひたくなる。

それと同じやうに、燦々たる銀光に煌めく處女雪の、美しいスロープを眺めたとき、無意識にその肌にふれたと思ふ。無性にその上を這りたくなるのも自然の欲望であつて、どれもこれも、私等の心を大自然の中に、大自然と共に、溶解し燃焼する。勿論スキーの場合には、頂近い凍雪を踏むアイゼンの音、氷を砕くピツケルの味はひなど、私等には一體となつて楽しみの対象をつくる。

それ程楽しい冬山とスキーの快感を承知しながらも、十数年も放擲して、私はつい最近までスキーに手をつけなかつた。それはどう云ふ譯かと云ふと、登山家として甚だ申し悪

冠 松 次 郎

いことであるが、スキーをやるとすれば、ゲレンデで終ることは勿論欲しい。競技などは我が分際ではない。どうしても山へ、然も自分の傾向から云へば、最も深い、高い處を覗ふやうになるのは必然である。私はそこに避くべからざる冬山の危険を想像した。

實際家族の多い自分が、若しものがあればそれこそ大變だと、卑怯のやうだが、私は欲しながらも、スキーを熱愛して來た。針ノ木の雪崩、釧路の遭難、それから最近の浅間山の悲劇など、全く冬山には、人力の及ばない不可避的な危険が潜在してゐると思ふ。

そして私自身も、早くからスキーをやつてゐたならばと思ひながら、若しさうだとすれば、とうに山靈に召されてゐると思はれる節さへあるやうだ。

然しその退嬰的の私も、最近になつてから、雪深い一萬尺の冬山の姿に、親愛しなければ我慢出来なくなつた。そして遅延ながらスキーの必要を感じ、若い人達の手引を頼りに「老の手習」を始めた。

覺束ない話だが、決して捨てたものではない。いくら轉んでも、雪の

斜面の滑降には、たとへやうもない快感がある。

○ 身體の肥えた、春の不高くない私は、沁るよりも轉んだ方が早からうなどと冷やかされるが、然し沁れる。そして沁るのが痛快だ。

○ 生憎と少し沁れるやうになりかけた時、肝腎な向脛の骨を折つて、中止しなければならなかつた。それでも山で足を鍛えてゐた御庇か、半年程で全く舊のやうに癒えてしまつた。今年も二月へ入つたなら、又何處ぞへスキーで轉びに行かうと思つてゐる。

○ スキーと云ふ奴は、箆棒で出来てゐるだけあつて、身體より先へ、ペラボウに沁つて行く。

○ 全く手におへない代物だ。沁り始めたが最後、てんで、見込がつかない尻餅をついた。その時だあゝ！

○ こんな處までよく沁つたものと振り向くのは、そして我ながら驚くことは、自分の尻で穿つたその大きな穴だ。併し私は、スキーの理ぜめなのにはつくづく感心した。

○ これが、私のスキーを始めたときの感想である。

主 要 目 次

★スキー漫語……………冠松 次郎 一

★研究欄……………二—三

冬山の危険……………額田 敏

自然離話……………額田 敏

★新刊紹介……………三

日本アルプスの登山と探検……………木暮理太郎

北大山岳部報……………伊藤秀五郎

雪—女性とスキー……………福島昌夫

★山の消息……………四

乗鞍岳位ヶ原に於ける雪崩發生報告……………澤柳誠四郎

★會員通信……………五

富士山行、氷ノ山、臺灣行與作さんの死。

★會務報告……………五

新舊理事送迎會新入會員退會者

會員改名

代表者變更會員住所變更

名簿誤字訂正陸地測量部新刊地圖目錄

新着圖書會員寄贈圖書定例理事會



研究欄

冬山の危険

額田 敏

毎冬乍ら、雪の爲めに、登山者其他の人々が犠牲となることは、甚だ悲しむべきことである。

今冬季に於て、主として、登山者が中級山岳に於ける遭難は、新聞に公表されたものだけでも、熊の湯附近に於ける二件、三國峠に於て一件水上附近に於て一件、蔵王山に於ける一件、浅間山に於ける件、等々、短時日の間に頻繁な遭難の報が續出した。

それが主として高峻山岳地帯に於て、二千五六百米級以下の山に於て起つてゐるのである。

最近の浅間山に於ける遭難の如きは現今日本に於ける一流の女性山岳家が二人、而も姉妹が共に遭難された事は今迄に無い悲惨事であると云はねばならぬ。

報道する所に依れば、リーダー格の會田氏は浅間山の冬期登山に對しては相當の経験ありし人かの如く報

ぜられてゐる。而も遂に悲しき結果を聞くの已を得ざる事に到つた事は洵に悲しく且つ残念な事である。

遭難者にして、既に生命を斷ちし人は免れ角、その家族、並びに社會は如何程其の遭難の爲めに、絶大な影響を蒙るかを考ふるのである。

思ふに、冬季に於ける山岳地帯の危険率は夏季に比較すべくもない程に多くの要因を含むものである。気温の寒冷、強風、並びに吹雪の突發的襲來、多量の降雪による歩行困難及び方向の誤り、雪崩の發生、堅雪上の滑落、スキー滑走時の不時の怪俄、肉體の過勞、等々、之等の要因が單獨に、或は、同時に集合して、襲來する時に、住々遭難事件は惹起され奪き人命をまで犠牲とする場合が起る。

ことに冬季に於ける斯かる氣象的變化は非常に甚だしく、且つ其の變り方が急激であることが多い。それが爲に登山者が之に對する準備を自ら行ふ暇さえ與へられない程の事も度々ある。

それが爲めに、相當の準備は持ち乍らこれを利用する事が出来ない事もある。準備品を携帯せざる場合は全く不注意の譏はまぬかれないが、山は、各々其の地上的位置に依りて、其の氣象的變化に多少特性的變化性を有するものが多い。それ故登山者は、登山の都度、此の山の氣象的並びに其他の特性的要素を研究しなければならぬ。然る上に於ても人知の自然的現象測知は極めて淺いかなものであるが故に、全く、人の

云ふ天災とも稱すべき禍が突發するものである。

只徒らに、登山の回数を以て、その山に對する智識の深淺を云々するが如き、又、リーダーとしての信頼の程度を云々することは出来ないものである。

總ての方面に涉りての研究的並びに實地経験を有するものでなければならぬ。

又登山者は山岳の一般的並びに個個に對する研究のみならず、其人個人の登山の技術も大いに自ら常に研究的に、又他の事情の許すかぎり熱心に研究してゐなければならぬ。徒らに、現代のジャーナリズムの惡風に煽られて、増上慢に陥り、何等の自信なく、慢然に、虚榮的に山に登ることは甚だ危険に伴ひ易いから、此の様な事は最も慎まねばならぬ。

或る山に登りて、例へ、非常なる好狀件に恵まれて、甚だ容易なる登山を完了し得たとしても、之は對自然的には極めて稀なる一つの機會であつたに過ぎないものであり、之を以て、斯の山の難易を云々論じ又は之を他に吹聴的な言辭を弄することは大いに慎まねばならぬ。かゝることは、ことに刊行物に就て最も慎重なる態度であることを要するものである。

又は、登山中、或る氣象的變化に對し、或は事故に對して、辛じて無事なる事を得た事件に就て、虚榮的な報道をも充分慎まねばならぬ。登山者中登行時は殆んど何人とも

優劣は認め難い事が多いが一度滑降となるや、その差別が極めて明確に表はれて、寧ろ、轉倒によりて、倒降すると思はれる者が、山に登ることは一般に危険に伴ひ易い。故に山に向ふ者は、自己の體力、其他によりて最も山岳地に於て得意とする技術の確實なる練習、習得を心掛けねばならぬ。一問滑りては轉び五間降つては轉倒するが如き者は登山者の資格なき者と云はねばならぬ。又一行のリーダーたるべき者は、總ての點に充分なる教養あり、山岳に對する技術のみならず、一行の信頼は勿論全責任を負ひ得るものでなければならぬ。

如何なる些事であるとも、之に注意して最も安全なる策をたて、絶対に事を未全に防ぐのみならず、一行の氣持を最も快活にする様、心掛け得る者でなければならぬ。

如上の事柄は勿論登山者自己として、大いに注意をし、又自重しなければならぬ事であるが、近來、學校山岳部及其の關係者以外の、所謂大衆的登山熱、ことに冬山に對する登山が急速に盛んになり、之等の人々に對して、スキー技術の訓練機關として、種々たる名目の下にスキー講習會なるものがあり、各地方に度々行はれる。然るに、之等講習會なるものを觀るに、主として、否殆んど全部が單にスキー技術のみの一般的に且つ非常なる多數の人に對して極めて不親切なる講習を行ふに過ぎずして、其の名の現す山岳スキー講習と雖も、何等山に對する一般氣象

的、乃至は其の山岳獨得の積雪狀態に關し、或は、其の山地各個處に於ける取扱ふべきスキー技術の訓練、並びに、其の危險性に關して實地指導することがないのである。只通一偏の營利を主眼とする講習會が多いのである。斯かる講習會を習したからと云つて、山に對する自信がついたものと自惚れ、分に過ぎた山に何等の適確なる準備もなく出掛けるのが危険を惹起する一つの原因となるのである。

又各々登山團體のスキー合宿と云ふ事が近來非常に流行し、或る時期に於ては、多少でも知られた、スキー地方は、其の合宿によりて、超満員である、これはスキー隆盛である點、何等悪い事ではないが、他のスキー練習者はいゝとしても、多少なりとも山岳スキーを意圖する人達のスキー練習振りが餘りに山岳スキーと距りがある様な練習を行ひ、又、山地を遊行するスキー家を見るに、又、餘りにも不安定にして轉倒し易き未熟者の多きに驚くのである。雪上(或は雪中に)の轉倒は、疲勞の度を急速に加へ、尙、防寒上甚だ面白からざる結果を招來するものであるが故に、山地スキー術は安全確實を第一に置かなければならない。優美と云ふことは、非常なる熟練、上達者の論すべき問題である。この山地に於ける安全確實なるスキー技術の基本的動作は、必ず、特に其の山岳地に精通した者にして且つ技術上達者の指導を先づ受なければならぬ。

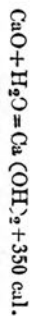
研究欄

自熱罐詰

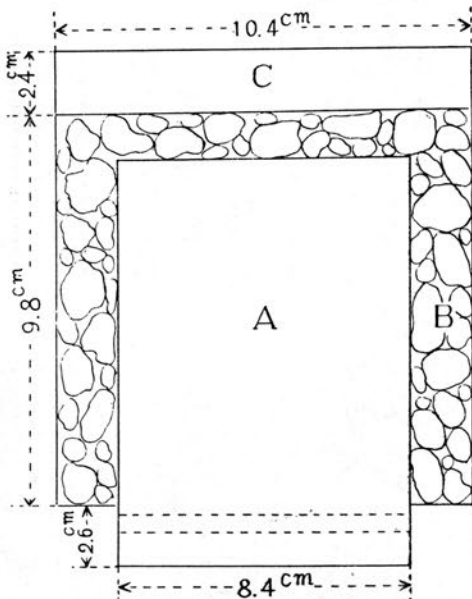
ボーランド・ライデン製、其の商標 Kaleng Air. と云ふ罐詰は自熱装置を有し、使用に際して一本の針（罐に附屬）を以て、其の上部所定の箇處に穿孔することに依りて、極めて短時間中に、如何なる寒冷時に

上部に水の容器を連結したものがあ

る。之が使用法は、先づ罐詰を圖の如き位置に於て、Cなる水容器の上面に穿孔の標記ある處に附屬の針を用ひて孔を開き、この針をC水容器の底部をも貫通せしむ。然る時は、水は生石灰中に入りて



の如き化學的反應を起し、發熱して其の反應熱の爲めに罐詰中味は殆ん



A.....罐詰中味
B.....生石灰
C.....水

於ても、罐内容物を沸騰する迄に加熱し火を使用せずして、即時熱き御馳走を寒冷の中に於て食することが出来ると云ふ、極めて便利なるものである。

其の罐詰の内容は、豌豆とソーセージ、豌豆とハムの二種類があり、又汁はスープとして飲用に供して又美味である。

罐詰の構造は圖の如く、普通の罐を生石灰容器によりて包圍し、其の

ど沸騰する迄に加熱せられる。此の間約五分、そして反應終了せば水は全部使用し盡されてゐる。後暫らく静置したる後に、罐詰を天地反對として、點線に沿ひて罐を開き、適宜に其の温かき中味を食することが出来る。

山に登る際、ことに冬季、スキー等に之を携行して、雪の中で之を試食を行ひ、魔法瓶の温き紅茶などと共に効果あるものと考へられるので

こゝにその概略を述べたのである。之は少し罐詰店と交渉して、種々の中味のものに、日本に於ても適用せしむることが出来れば尙更に便利であると思ふのである。

只水、生灰、及び重量の増へることとは一つの不便とも云ふべきものがある。

一個全重量約三百匁

額田 敏

圖書紹介

日本アルプスの登山と探検

凡そ山へ登る程の人で『日本アルプス』の著者小島鳥水君の名を知らない人は無いだらうし、小島君の名を知つてゐる人ならば、同君に依て再三再四紹介されたウォルター・ウエストン氏の名を知らない人はあるまいと思ふ。つい近頃までウエストン氏が日本アルプスの命名者であるかのやうに誤り傳へられたのは、同氏に『日本アルプスの登山と探検』と題する著書があつた爲で、それによつても讀まなかつた早合點の致す所であつた。勿論日本アルプスの命名者であらうがなからうが、そんなことはウエストン氏と其著『日本アルプスの登山と探検』の功績に些の影響を及ぼすものではない。

明治の初年から二十年頃にかけて所謂日本アルプス地方に足を踏み入れた外人（それも殆んど英國人に限られてゐる）は少くないにしても、詳

しい記行は殘されてゐない。或は出版されたものが有るかとも思ふが私は知らない。ウエストン氏は其等の人々に比すれば稍や後れてゐる方である。それでも明治廿四年から廿七年迄四年間、特に外人未踏として知られた山を選んで、南北中央の日本アルプス諸山を踏破し、詳細なる登山旅行記を纏めて出版したのが即ち日本の登山界に取りて忘れ難い貴重なる文獻として、最高位を占む可き『日本アルプスの登山と探検』一巻である。本書は明治廿九年に英國で出版されたので、今では容易く手に入ることは出来ないであらう。私は廿二三年の頃上野の圖書館で始めて之を發見して、解らない所は好い加減に想像しながら、それでも巻を措くに忍びず三四日を費して讀了したことを覚えてゐる。そして至つて交通の不便な、其上風俗習慣を異にする奥地の山を幾多の困難にも屈せず目的通りよく登山したものだ、自分の體驗に想ひ到つて微笑しながら、感心して止まなかつた。その懐

しかつた洋書が岡村君の努力に依つて明快な日本文に譯され、誰にも容易に得られる手頃の一冊子として梓書房から刊行されたことは喜びに堪えない。挿畫の如きも吾々に不必要と認められる三四の者を除き、原書から忠實に複寫して入れてゐる。想ふに本書を手にする何人も、恐らく知らぬ他國の山旅でもしてゐるやうな氣持で、著者の筆の導くまゝに追従しないでは居られないであらう。それ程に興味深いものがある。切に

一讀をお奨めする。四六版三六一頁 圖版二六、定價二圓五十錢、梓房書發行。（木暮理太郎）

北大山岳部々報

第四號（一九三三）

菊判本欄一六八頁、年執一六頁 定價一圓五十錢

創刊號以來専ら北海道の山岳の記事の蒐録を特色とする北大山岳部々報の第四號（昭和八、十一月刊）は最近二年間の記録を集め前各號に比して勝るとも遜色なき充實せる内容を持つて出版され殊に多くの新しい記録を収録し得たのは一面に於て北海道の山登りが内地のそれに比して未だ多分に處女性を有することを物語ると同時に又一面に於て多數の優秀なる部員諸君の眞摯なる不斷の努力を象徴するものに外ならない。即ち『種雪期の大雪山（冬の熊根尻山塊とウベサンケ山）』『一月のニベツツ山』その他高山脈に於ける多くの興味ある登山記録が之である。その他『アイズビツケルとシュタイグアイゼンの材質に就て』及び『高山に於ける風土馴化作用と酸素吸入に就て』の二篇も亦興味ある研究である。百頁に亘る『年報』は地方別に於てあつて便利であり貴重な參考資料である。寫眞は前號に比して概してよく殊に『晩秋の大雪山』の如きは秀逸である。（五頁参照）（伊藤秀五郎）



山の消息

乗鞍岳位ヶ原に於ける雪崩発生報告

澤柳誠四郎

發生月日 昭和九年一月五日午前
前十時二十分

發生地點 位ヶ原の位と云ふ字の右肩、二、三六〇米(夏道下の風陰側の空澤)(昭和八年三月三十日發行陸測五萬分之一地圖參照)

崩落の大きさ 巾約五十米

斜面の傾斜 約三十度

雪崩の種類 表層乾燥新雪雪崩

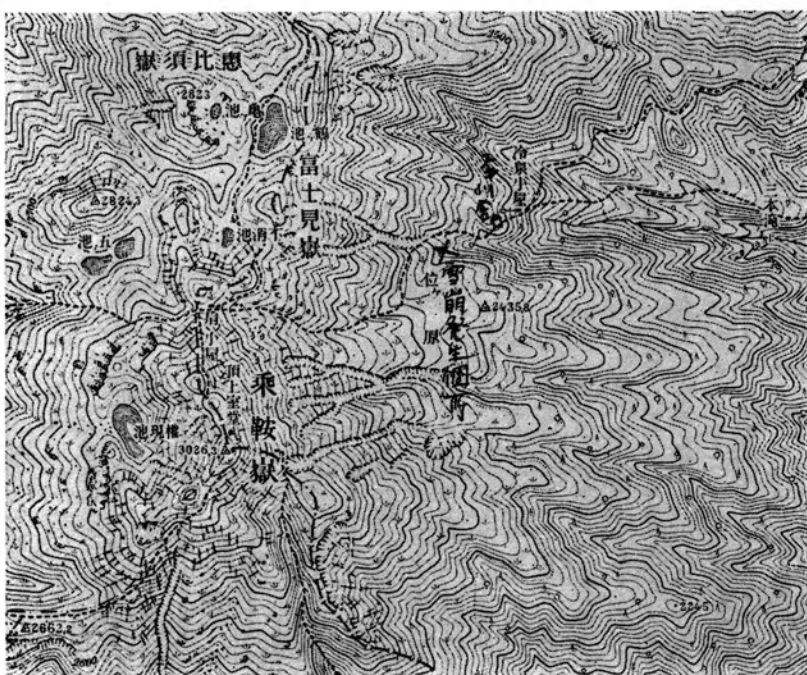
當日の天候 吹雪

溫度 零下十度

當日迄の天候 十二月初旬以來の荒天は十二月二十七日に一旦納り翌二十八日より再び荒天となり其儘にて一月五日となる。當日はやゝ明るくなりたれば出發の準備中再び天候險惡となりたるも快晴となる見込のものに出發せり。

雪崩發生迄の 當日出發せしは冷泉小舎より三名(内一名は人夫輪かんを穿く)スキー小舎よりは、我々のパーティーの他に單獨行一名合計六名。

大體夏道通りに登り行き二、五〇



し處、猶も徐々に雪と共に身體が下方に動き居るに氣づきしかば大に驚き急ぎスキーを脱し反對側の斜面へ逃れ後續者に注意したり。然し乍ら他のパーティーは相當上方にありたる爲に此注意が行渡らざりし結果、

は完全に埋没、他の二名は首のみ現はる。(輪カンを穿きし人夫は此個所より未だ下方にて登行に努力中なりき)

幸ひに一同大した事なく(轉落の際首を打ちし者と引き出す時に足を少し捻りし者もありたるも)只、一名の者のスキーの片方が埋没せし儘遂に見當らざりしのみなり。

□備考 例年の状態ならば本個所に於ては雪崩發生は絶対になしと思はるゝも、本年の如き不規則なる天候のために遂に發生せるものと考へらる。

然して例年クラスト状態なる(位ヶ原の位と云ふ字の左方夏道)風向側斜面が粉雪状態なりし爲多少不安に感じたるも、例年雪崩發生せし事を聴かざりし爲遂不注意にも往復同じ道を辿りし爲却つて結果に於て大事を引き起せしものと覺ゆ。以上

二月中理事在室當番順

二日(金)	逸見
五日(月)	茨木
七日(水)	飯塚
九日(金)	伊藤
十二日(月)	神谷
十四日(水)	福島
十六日(金)	黒田
十九日(月)	松方
二十一日(水)	三田
二十三日(金)	額田
二十六日(月)	田中
二十八日(水)	鳥山

スキーの快!



白雪を蹴つて曠原に引くジュブール、ジャンプにレースに寒風を突いて疾驅する壯快さ! スキーこそはウィンタースポーツの華である。またスキーヤーにとつて山小屋の夜こそは又とない楽しい憩ひである。心ゆくばかり山の湯に浴してサロメチールを擦り込んでをけば一日の疲れもどこへやら...そして食後の集ひには今日の活躍を誇り、明日のコースを語るなど興味は津々として盡きない。

スキーにサロメチールは必携の常備薬、皮下にしみ込む爽快感! 鬱血、疲勞の快き消失感! 疲れを去るにも更生の元氣を養ふにも手離せないものであるが、それが山小屋で用ふるとは殊更の魅力を感じる。これは又凍傷の豫防薬として腫れや痒みを止めるに大變い。

會員通信

富士山行

八年十二月十日 夜行で吉田口より富士へ参りました。三合以下は降雨、六合附近は充分スキーを樂しむことが出来ました。翌日八時半、五合目小屋登、快晴にして突風もなく大雪溪を登行二時半頂上着

頂上の眺望雄大、寒風強烈のため十分餘で下山、歸路八合目附近は素晴しき粉雪でスキーを下に置きしを残念に思ひました。五時に五合目着同日歸京しました。(加藤恭平)

氷ノ山

關西の上越に比すべき但、四、幡、美の國境は中國では大山に次ぐ氷ノ山(一五〇m)を盟主として、附近には多數のスキー登山に適する山が群立して居る。晴天に恵まれた氷ノ山登頂概要を述べます。

一月二日午前十時取鳥縣若櫻より上湯原迄自動車(春米(八時)↓若櫻山岳會ヒュッテ(八時四十五分)↓氷ノ山越(十一時)↓氷ノ山山頂三角點午後一時二十分―一時三十五分)氷ノ山越(二時四十分―二時五十分)地藏堂三時三十分)福定(四時三十分)

單獨行

氷ノ山越の數町午前より雪はクラストし登行困難、赤倉ゲレンゲの上に相當大きな雪崩跡あり、氷ノ山越より頂上にかけて大きな雪庇が數ヶ所あり。年末二日の降雨によりてク

ラスト甚だしく、乗越より二ツ目の峰よりスキーをアイゼンに代ふ、頂上の三丁手前、岩の處をスキーデボ頂上は西北の烈風荒びて永く止るを得ず、積雪二米餘、氣温零下十七度快晴にして、銀嶺は鯨波の如く眺望絶可、大山迄も望み得、頂上附近の樹木は樹氷の華を咲かし、金屬性の音楽をかなでてゐる。デボよりスキーを履けるが氷ノ山越迄は今は到底心地よき滑降は望み得ず、地藏堂下溪にアズキコログンは深雪の爲め非常に危険なれば注意を要す。

一月三、四、五日 鉢伏山、瀧川山、免和野、村岡、蘇夫岳―神鍋山―山陰線江原驛に出で、新春スキー行を終る。(石原正直)

臺灣行

日本山岳會會員諸兄、久しく御無沙汰致して居ります。小生昨五月二十八日東京發、臺灣へ参りて居りましたが、十二月二十七日七ヶ月振りで歸京致しました。今度の旅行は臺東附近二週間、乳頭島、火燒島二ヶ月、知本越道路二週間、九月初旬より十一月下旬まで南湖大山、次高山地方等でありました。南湖大山は田中薫さんの道案内と云ふわけでしたが豫想通り氷蝕地形をファンダンに發見小生が前に次高山で發見したカールからの推論に對し多くの材料を加へました。其の結果は近く田中さんと共同で發表する心算です。次高山彙は二ヶ月半ばかり歩き、之で主なコース並に一萬尺以上のピーク三十餘は殆んど足跡を印する事となりました。各々十日餘りの旅を四回行ひま

したが、一回目はビヤナンの蕃人を連れて桃山に登り大霸尖山に抜け夫れより次高山に縦走を完成しました桃山、大霸尖山、次高山三山掛けのコースは今回が最初です。途中蕃人全部に逃げられ、ヒマラヤのエビンードにでもありそうな苦杯を味ひました。第二回はシカヤラ、サラマラ兩社の蕃人を連れて、次高山彙南端の劍山(著名ピリオン、三二二七米)に初登頂、それよりアトハン、フケホン、ユボラン、バツトリノーミンバガンの諸峰を経てスカイランに下りました。第三回と第四回は次高山主峯附近にベスキヤンプを置き、四方に放射線的な登行をして附近を精査致しました。氷蝕地形は南湖大山より遙に多く残つて居ります。十一月十八日には今年二度目?の新雪に會ひ愉快でした。今度の臺灣旅行の動物地理學的な探究を主としましたが、他に地質地形や土俗學的な仕事も致しました。只今其の整理に忙殺されて居ります。(鹿野忠雄)

興作さんの死

早月川から劍岳、立山や猫又山に登られた方々はバンバシマの取入口の番人、誠に氣立の良い親切な佐島興作さんを知つて居られる事と存じます。あの人が不慮の事で亡くなられました。十二月二十一日、午後二時頃、吹雪の中を(積雪約二米)小屋より發電所に行く爲、小屋横の貯水池の縁を歩いて、雪と共に水中にずべり落ちられ、どうしても上り得ず、遂に落命されました。(年三十五歳)。親しい興作さんの死に遭ひ、悲しみの心に堪へず、謹しんで厚知の方々に報告致します。

今年こそ、冬の劍岳と氣負ひ、小林兄弟と宗作、忠太郎と私の五名二十三日、上市着にてバンバシマに向ひましたが、途中右記の事を知り意氣銷沈。押切つて、二十五日根據地に入りました。しかし二十六日ふとした思ひもかけぬことで、小林弟が左手指に骨を傷める裂傷を負ひ急卒に吹雪の中を引上げねばならなくなりました。五年間、年々に切望して、力足らない故、未だ冬の劍岳に登り得ません。(一月四日、兒島勘次)

【新刊紹介】

雪―女性とスキー

黒田米子著 南光社發行。昭和八年十二月八日定價二圓 四六判三八八頁 裝幀佐川敏子

充棟汗牛もただならないスキー書類の中に、女性スキー愛好者としての著者の近業は、それが女性の立場から同性におくられてゐる處に意義がある。女性のもつ繊細な神經が豊かな感受性を通して、雪と山とスキーとから汲みとられたもの、これは確かに新時代の女性に最も良き指導書であり、助言書であらう。

家庭婦人、女學生、子供とスキー及び健康状態、美容と衛生等々の注意は、スキーが一般的に家庭に移入されてゆく今日男性も亦別の意味から一讀の要があるであらう。

また、下篇をなす隨筆集「雪煙巡禮」に收録された嚴冬の十勝岳日記以下八篇は著者の個性を活した好讀物と思はれる。(福島)

會務報告

新舊理事送迎會

新舊理事諸君の送迎會が一月二十五日午後六時から芝區田町の司俱樂部で催された、關西から新任理事の三木高峯君と津田周二氏が見へた、中原繁之助君も見へる豫定であつたが風邪の爲お見合せとなつた。

昨年で満期となつた理事諸君のうち松本善二君は出席の途中腦貧血で新橋から引返されたと電話があつたのは浦松佐美太郎、逸見眞雄君の御缺席とともに残念の至りであつた。

一昨年は三會堂階下の東洋軒、昨年は晚翠軒、今年は此司俱樂部、と處は變るが例の通り堅苦しい御挨拶は抜きで萬事どうぞよろしくと御互に云ひあつただけで此愉快なる一夕を送る。

去年の忘年會もさうであつたが、日本山岳會の晩餐と云つたので凝性の此の店では獻立に山の名をつけた例へば汁は雲畑の猪汁、御飯は阿蘇山爆發かやくめしと云つた次第の面白味があつた。かくて九時頃終つて皆家路につく。

筆を擱くに當つて今回退任される横、角田、松本、浦松、中原の五氏に厚く感謝の意を表すると共に新任



の松方、飯塚、三田、逸見、島山、三木の五氏の努力を切望する。當日の參會 左の如し。

横有恒、角田吉夫(以上退任)、島山佛成、飯塚篤之助、三田幸夫、三木高峯(以上新任)、津田周二、小島久太、高頭仁兵衛、近藤茂吉、冠松次郎、茨木猪之吉、神谷恭、福島昌夫、頼可敏、木村鐵吉、伊藤秀五郎。

代表者變更

鹿兒島市山下町

第七高等學校山岳部代表

谷山 國治

名簿誤字訂正

退 會 者

昭和八年十二月中

(五八) 横濱市 三上 孝司

四五 九 本莊町石鴈六六
四九 二 町 市

陸地測量部新刊地圖目錄

五萬分ノ一地形圖修正
仙臺 尾花澤 一面
長岡 彌彦 一ノ
高田 岡野町 一ノ
妙高山 戸隠 一ノ
新瀉 大日岳 一ノ
金澤 城端 一ノ

新着圖書

北大山岳部々報 第四號
地學雜誌 第五三八及五三九號
雪 女性とスキー 黒田米子氏
山 創刊號及二號 梓書房
ウエストン著、岡村精一譯
日本アルプス登山と探検 同上
ケルン 一月號 朋文堂
藤田信道著、積雪期登山準備と技術
山行案内 一月號 朋文堂
昭和三マウントクラブ
國際觀光 一月號 阪神山岳會
山 幸 同
岳 第五輯
山と溪 十二月號 山と溪の會
黒木立 九三、九四 關東岳愛會
ベルグ 二十六 岡山々岳會
神戸アユモ合々報 一月號
九州山岳聯盟報告 第九號
神戸突破嶺會々報 十一周記念號

甲斐山岳會々報 第一號
明峯山岳會々報 一月號
京都山岳會々報 同

旅の趣味 一月號 大阪ミチコー會

旅行 同 東京旅行クラブ

旅路 同 關東旅行クラブ

ザイル 第二號 東京アルカウ會

山 彦 一月號 東京山岳會

山 同 東京山岳會

アルカウ趣味同 日本アルカウ會

ベデスツリヤン 一、二月號

白 鳳 關西徒步會

獨立樹 第十二 東京山旅クラブ

R・C・C部報 一月號

みなかみ會々報 七三、七四

奈良みなかみ會々報 三一、三二

東京市山岳部パンフレット 十三

廣島山岳會々報 一月號

N・G山岳會々報 三號

東京登山歩流會々報 一月號

日本登高會々報 同

登山趣味會々報 第八

臺灣山岳會々報 五年十二、六年一

神戸山岳會々報 十五年一〇七號

山と旅の會々報 三六—三七

陸地測量部發行地圖目錄

格 火 第一號 行雲會

朝鮮アルプス縦走記 著者加藤康平氏

The Alpine Journal Vol. XLV, No. 247, Nov. 1933.

The Geographical Journal Vol. LXXXII, No. 5/6, Nov./Dec. 1933.

Bulletin Arpachean Mountain Club, Vol. XXVII, No. 3/5, Dec. 1933/Jan. 1934.

The Prairie Club Bulletin, No. 231/232, Dec. 1933, Jan. 1934.

Trail and Timberline, No. 182, Dec. 1933.

The Mountaineer, Vol. XXVI, No. 1, Dec. 1933.

Die Alpen, No. 11/12, Nov./Dec. 1933.

Rivista Mensile Club Alpino Italiano, Vol. LII, No. 10/11, Oct./Nov. 1933.

La Montagne, No. 252/253, Oct./Nov. 1933.

Planinski Vestnik, Stev. 11, Leto 1933,

Centre Excursionista De Catalunya Batlle, Any XLIII, Num. 461, Oct. 1933,

Svenska Turistforeningens Tidskrift, Nr. 8, Dec. 1933.

De Bergids (Winter Nummer), No. 8, Dec. 1933.

會員寄贈圖書

雪中交通具(民俗學五ノ一二別刷) 一冊

臺灣登山史(臺灣體育史別刷)一冊

筆者 高橋文太郎氏

筆者 沼井鏡太郎氏

フリーフ・レポート・フォルモサ 一冊

京都同志社大學山岳部臺灣登山寫真

アルパム 一冊 兒島 勘次氏

善多尼阿雜筆第二報(青森林友別刷)

村井 三郎氏

Yellowstone National Park, W-

oming.

Glacier National Park, Montana.

Lassen Volcanic National Park,

California.

Mount Rainier National Park,

Washington.

Rocky Mountain National Park,

Colorado.

Grand Canyon National Park,

Arizona,

Climbs at Duff and vicinity.

Sky Line Trail Hikers of the

Canadian Rockies.

(東 良三氏)

一月二十五日定例理事會

(出席)高頭、小島、近藤、冠、茨木
神谷、額田、伊藤、福島、横、津田
島山、三木、三田、飯塚
一、入會者詮衡の件
一、理事事務分擔の件左の通り決定す。

庶務 島山、茨木、田中、飯塚

會計 島山、神谷

山岳編輯 木暮、伊藤、福島、三田、逸見

會報編輯 福島、逸見、額田

圖書 松方、伊藤、黒田、飯塚

研究調査 茨木、田中、福島

山小屋 松方、三田、逸見、角田(囁託)

山日記編輯 松方、黒田、逸見、三田、額田、角田(囁託)

關西事務一切 津田、高橋、三木

× × ×

會費納入期日

二月末迄何卒

御願申上ます

『山岳』原稿募集

『山岳』第二十九年第一號の爲に各位の自信ある原稿を御送り下さい。
締切 二月廿五日

(二頁より續く)

斯かる指誘者は、學校關係以外の登山者學には割合に交渉少なき事が多きを普通とする故に、主として、其の地元地方のスキー家の内にて、其の地山岳に精通し、且つスキー技術の上達者に待つを最も便利とするけれども、之が現今極めて其の數少く、多くのスキー家に對して、不便を感じる次第である。若し萬一遭難事故を生ずるが如き時は、徒らに馬鹿騒のみ大きくして、一瞬を争ふ時にも拘らず、論議百出、時間空費、餘りにも遅れた搜索、と云ふことになる。又實に怪しからぬ事は、遭難事件を利用して、爲にする輩のあることである。斯かる點は、地元の人達によりて取締り、殊に、スキー關係者は事故の發生を未然に防ぐ事に關して充分の用意と深き注意とがあらねばならず、又、萬一の場合に備ふる爲にも亦費用、時間等の點に就て、空費のなき事を期する心掛がなければならぬ。

編輯後記

山に入りてこそ山中曆日なしとは云へ、人里に住む我々は年の瀬を越すと云ふ個人的な、一年中最も忙し

い時であつたし、その上に、スキーの季節になつたと云ふ、それ程にも出かけられないのではあるが何だか心ばかりがそわ／＼して、尙其上に、會の事務分擔が變る時で、會報の事務も豫定通り涉らず、尙且つ、會員諸賢からの御投稿も少く、遂に大變に會報の編輯が遅れたと云ふ次第でありました。

今年から、福島、逸見兩氏が會報編輯の任に當られました。兩氏は申迄もなく、敏腕の開き高き方々でありますから、今後の會報發展に刮目して待つべきものがあることを確信致します。

又會報は、會員全體からどし／＼と内外山岳に關する諸方面の御投稿を御願ひしなければいく其係の者が力んでも仕方がないのであります。山に對する遠慮は、登山に對して何等意味なきものであると同様、又山を想ふ熱烈にして眞面目な態度、これはやがて、我日本山岳會の會報に對しても會員たる諸賢の、遠慮などは以ての外の事、いつもうち解けて、我事として、指導、援助、支持あるべきを希望して已まない次第であります。

如何なる原稿をもどし／＼と御投稿あらん事を。

(額田記)

昭和九年一月卅一日印刷
昭和九年一月卅一日發行

發行 者 額田 昌夫 敏
編輯兼印刷人 福島 昌夫 敏
東京市芝區琴平町二
不二屋ビル

發行 所 日本山岳會
東京市芝區琴平町二
不二屋ビル

廣告 一手取扱 進 恒 恒 恒
電話 四谷・五六一 番 社

(所屬印社文昭)

『山岳』バックナンバー

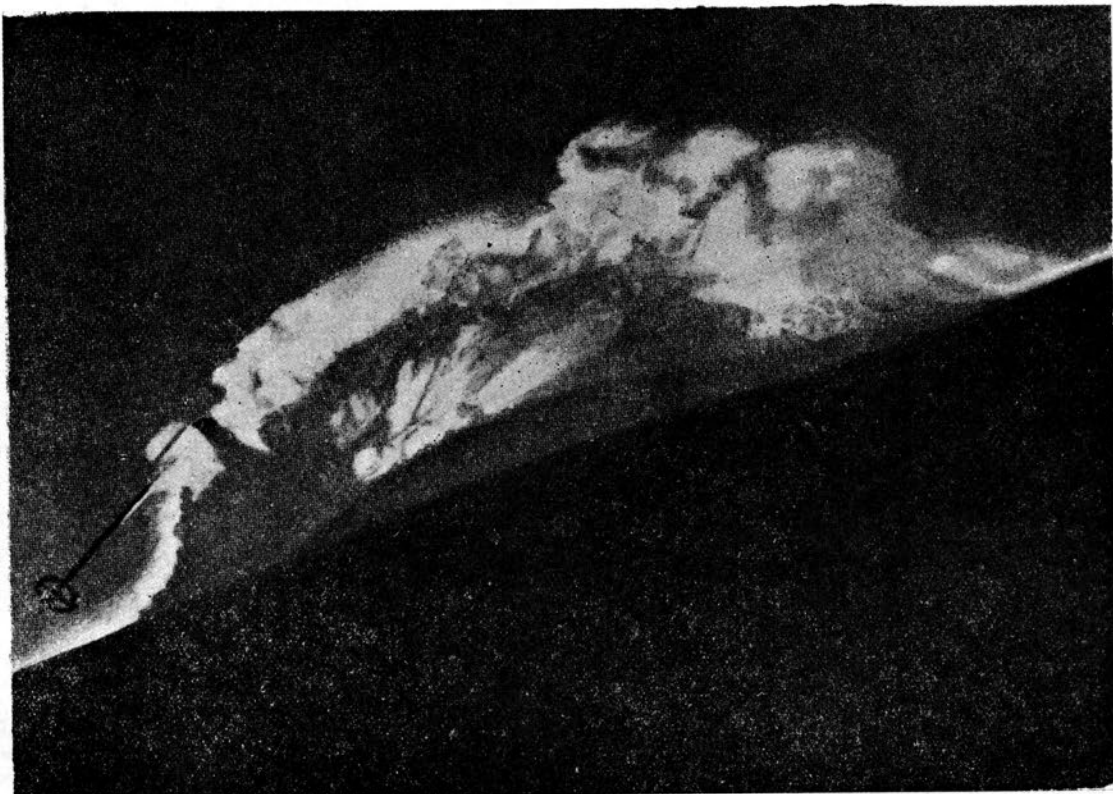
VoI.	No.	定價	送料	VoI.	No.	定價	送料
4	1	¥2.00	6	9	2	70	8
4	2	2.00	〃	9	3	70	〃
4	8	2.00	〃	14	2	50	〃
5	2	1.00	8	14	3	50	〃
5	3	1.00	〃	15	2	50	6
6	1	1.00	〃	15	3	50	〃
6	2	70	〃	16	2	50	8
6	3	70	〃	16	3	50	〃
7	1	1.00	〃	17	2	50	6
7	2	1.00	〃	17	3	50	〃
7	3	1.00	〃	18	1	50	〃
8	1	70	〃	18	2	50	〃
8	2	70	〃	21	2	50	8
8	3	70	〃	22	1	50	〃
9	1	70	〃	23	3	50	〃

(奥上州號)

(黒部號)
(第二奥羽號)
(臺灣號)

日本山岳會

東京、芝、琴平町一、不二屋ビル307號・振替口座東京四八二九番



セルロイドエツヂスキー

破損し易いスキーエツヂをセルロイドを以て保護したるもので従來のスチールエツヂに比し遙かな輕量となり以上の滑降速度を有して居ります。昨春アールベルグに於てシュナイダー氏を始め同クラブの猛者等に依てつ使用され上記の様な最高の讃辭を贈られたものです。舊いスキーに加工出來ます。

加工料 ￥4.00

神田小川町
銀座五丁目

美津濃



優秀な片桐製

ウイメント ヤツケ

片桐テント登山具店

神田區神保町三ノ三
(神保町ビル一階)

- | | |
|-----------|--------|
| A 白防水布製 | ¥ 4.50 |
| B 茶防水布製 | ¥ 5.00 |
| C 簿麻茶防水布製 | ¥ 8.00 |

スケーターの
撮影に好適

スキー

高感光度

さくら

同時に
さくらフイルター
もお忘れなく

ハレーション防止
高感光度
強彩色性
微粒子

りあに店料材眞寫處る到